



パネルディスカッションの様子

SASと疲労・ストレス

新たな対策をテーマに

第5回 OCHIS セミナー

大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構(OCHIS)は10月21日、大阪大学中之島センターで「睡眠時無呼吸症候群(SAS)と疲労・ストレスの新たな対策」をテーマに第5回OCHISセミナーを開催した。

パルスメーター  
用いて体調管理

理事長の武田裕氏が「SASと疲労・ストレスの新たな評価方

法について」と題して講演。SASと疲労・ストレスの関連性にスポットを当てた独自の調査分析を報告し、「体のコンディションを知るには、パルスメーターを活用した夜間時の心拍数分析が有効な方法」と、今後の新たな取り組みの方向性などを語った。

引き続き、理事の本貞子氏が「健康管理マニュアルを踏まえ、企業がなすべき対

策とは」をテーマに講演。「運行管理者は定期検査の診断結果を踏まえた上での点呼が大切」と説明し、「事故防止と健康管理は両輪と考え、一元管理と対策が不可欠」と述べた。また、OCHIS保健師の黒田悦子氏が「21年度トラック・バスのSAS検査分析と治療の必要性」を、全

協労働部長の高安茂氏が「全ト協におけるSAS対策とフォロー

体制の充実について」、労働科学研究所所長の酒井一博氏が「運転者の疲労を防ぐ・運行管理と健康管理の効果的な進め方」についてそれぞれ説明した。

さらに、交通関係者の取り組み事例として、梅田運輸倉庫常務の岩崎小夜子氏が「両輪会の活動と運送関係者の実質的な取り組み」を解説。パネルディスカッションでは、武田氏がコーディネーターに、講演者や報告者がパネリストを務め、活発に意見交換を行った。(山田克明)